

第6回 最上小国川流域環境保全協議会

平成22年7月22日14:00～
最上広域交流センター ゆめりあ会議室



第6回

最上小国川流域環境保全協議会

1. 第5回協議会における 指導事項と対応について

第5回 最上小国川流域環境保全協議会

概 要

開催日時 平成22年3月19日(木) 13:30～15:30

場 所 最上総合支庁 5階講堂

- 議 事
- 1) 第4回協議会における指導事項と対応について
 - 2) 今年度の環境調査状況について
 - 2-1) 猛禽類調査について
 - 2-2) 付着藻類調査について
 - 3) 環境影響予測の考え方について
 - 4) アユの生息にかかる環境影響予測の考え方について
 - 5) 今後の調査・評価方法について

第5回協議会指導事項と対応

分類	指導内容	対応
調査・解析方法について	① クマタカAペアの営巣は毎回変わっているため、営巣場所によっては保全対策の必要性、方法を検討する必要がある。	今後も引き続き調査を継続する。
	② 珪藻と藍藻の一般的生態の違いに留意して検討・考察する必要がある。	洪水規模・濁度・水温データなどとの関連を明らかにしていく。
	③ ヒメギフチョウは継続調査を実施してほしい。マグソクワガタは湛水域外での生息が重要。	引き続き調査を行い、配慮事項等について検討していく。
影響予測について	④ 環境影響の予測の手法・予測結果については適切と考えられる。	予測結果に基づき、環境保全措置・配慮事項等について検討する。
	⑤ 濁水シミュレーションの条件、考え方などを次回協議会で丁寧に説明してほしい。	シミュレーション条件などを丁寧に説明する。
	⑥ ダムサイト直上流の砂防ダムよりも水位が高い場合、低い場合についてその影響がどのように及ぶかを次回協議会で丁寧に説明してほしい。	砂防ダムと水位の関係による影響について丁寧に説明する。
	⑦ ワタナベカレハは情報不足であるため他の種と同レベルの配慮とする必要性に疑問がある。	配慮事項などについて検討していく。